

【鹿嶋市】 校務DX計画

【現状】

鹿嶋市では、GIGAスクール構想のもと、校務のデジタル化を推進し、教職員が教育活動に専念できる環境の整備に取り組んできた。具体的には、校務支援システムの導入、教職員向けのICT研修の実施、ペーパーレス化やクラウドツールを用いた情報共有の強化などにより一定の成果を上げてきた。特に、連絡文書の電子化や、成績処理・出欠管理のシステム化により、教職員の事務負担の軽減が図られた。

しかしながら、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用や完全なペーパーレス化、校務支援システムの一部機能が十分に活用されていないことに加え、FAXでのやり取り廃止や押印の見直しが進んでいないことも課題として挙げられ、「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえて、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

(1)クラウドツールの活用不足

保護者との連絡や日程調整において、クラウドツールの活用が十分でないことが課題となっている。特に、保護者からの提出資料の電子化が進んでおらず、教職員や保護者双方にとって手間がかかる状況が続いている。また、業務時間外の保護者からの問い合わせや連絡事項への対応について、クラウドツールの活用ルールが統一されておらず、面談や行事参加の日程調整についても、一部の学校においてクラウドツールで行う仕組みが確立されていないため、個別対応が必要となり、教職員の負担が大きくなっている。これらの課題を解決し、クラウドツールを活用した仕組みを整備するとともに、円滑な対応方法を確立し、教職員の負担軽減を図ることが求められている。

(2)完全なペーパーレス化の未達成

特に、FAXでのやり取りや書類への押印廃止が進んでおらず、紙を使わざるを得ない状況が続いており、業務効率の向上を妨げる要因となっている。

(3)校務支援システムの機能活用の不十分さと非効率な業務

校務支援システムの導入により事務負担軽減が期待されているが、各学校で児童生徒名簿への入力方法が統一されておらず、不必要な入力作業が発生している。また、教育委員会から送付した通知が、紙に印刷され回覧されているなど、システムの機能が完全に活用されていない。これにより全体的な業務の効率化が進んでいない状況にある。

【取組方針】

現状と課題から鹿嶋市では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

(1)クラウドツールの普及と研修の強化

保護者向けのクラウドツールの導入・運用方法を整理し、提出書類のデジタル化や日程調整ツールの活用を推進し、学校と保護者双方の負担軽減を図る。また、教職員に対するクラウドツールの使用促進に向けて、初任者やICTに苦手意識のある教職員を対象にした研修を強化する。具体的には、基本操作や運用方法に関する研修を実施し、実践的な指導を通じて、運用方法の統一を目指す。また、成功事例を学校間で共有することで、ツールの有効性に対する理解を深め、活用意識の向上を図る。

(2)完全なペーパーレス化の実現

書類の電子化をさらに推進し、ペーパーレス化を阻害している要因を洗い出したうえで、関連するシステムの機能強化や、その解決策を検討する。また、書類への押印については、デジタル化できる手段を模索する。特に、FAXの使用については、令和7年度に完全廃止とする。

(3)校務支援システムの機能活用促進

校務支援システムの機能を積極的に活用させ、名簿情報の入力方法を標準化することにより不必要な手入力作業の一掃など、既存の機能を最大限に活用できるよう運用方法を統一し、事務作業の効率化を更に進め、併せて、教職員への研修を充実させ、円滑な活用を推進するとともに、教職員の負担をさらに軽減できるよう支援を行う。